愛着スタイルによる情動エピソードの開示抑制理由の違い

○奥村弥生¹・三沢 良²
(¹山梨英和大学・²電力中央研究所)
キーワード: 愛着、情動の開示

Effects of adult attachment style on the reasons for inhibiting disclosure of emotional episodes.

Yayoi OKUMURA¹, Ryo MISAWA²

(¹Yamanashi Eiwa College, ² Central Research Institute of Electric Power Industry)

Key words: attachment, disclosure of emotion

目 的

私たちは、経験した情動をすべて他者に話すのではなく、しばしばその開示を抑制する。山本・余語・鈴木(2004)は、情動エピソードの開示を抑制する要因について検討を行い、因子分析を通してその理由を次の7つに分類した。1 自己保護、2 明確化の困難さ、3 意識化の回避、4 否定的な他者反応の予防、5 対人関係悪化への懸念、6 他者への配慮、7 話題の社会的価値の低さである。同じように開示抑制していても、その様相は多様であるといえる。

このような情動開示抑制理由の違いは何によって生じるのだろうか。開示において、その相手である他者との関係性や個人の対人スタイルとの関連は重要な要素と考えられる。これまでにも自己開示の違いが個人の持つ対人スタイルである愛着スタイルによって異なることが示されている(Mikulincer & Nachshon, 1991)。また、愛着は情動との関連も深いことが報告されており(坂上,2001)、情動エピソードの開示は愛着スタイルとの関連を持つことが推測される。本研究では愛着スタイルによる情動の開示抑制理由の違いについて検討する。

方 法

調査協力者 大学生・専門学校生242名(男107名, 女133名, 不明2名, 平均年齢19.82歳, 標準偏差=1.37)。

調査内容 1. 愛着スタイル: Bartholomew&Horowitz(1991)の4分類成人愛着尺度(RQ)の日本語版(加藤, 1991)。

2. 情動エピソード開示の抑制要因: ‘感情エピソードの開示を抑制した理由’の測定項目(山本ら, 2004)。喜び開示抑制のみに当てはまる1因子(否定的な他者反応の予防)を除き、残り6因子の負荷量上位4項目ずつ、合計23項目を用いた。

結 果 と 考 察

開示抑制理由の因子分析(主因子法・バリマックス回転)を行ったところ、山本ら(2004)の因子分析結果と異なる結果が得られた。改めて因子分析を行い、固有値ならびに解釈可能性をもとに4因子を採用した。山本ら(2004)の1と3が一つの因子(自己保護と命名)に、5と6が一つの因子(対人関係懸念と命名)に統合され、2 明確化の困難さ及び7 話題の社会的価値の低さはそのまま抽出された。

愛着スタイルごとの開示欲求、開示程度、開示抑制理由を検討するために分散分析を行った。各愛着スタイルの人数は、安定型81名、回避型26名、とらわれ型61名、恐れ型64名であった。分散分析の結果、開示欲求、開示程度、開示抑制理由の保護回避・対人関係懸念において有意差が認められた(Table1)。

悲しみ・怒りいずれにおいても対人関係懸念で有意差がみられ、安定型に比べとらわれ型・恐れ型が高かった。とらわれ型・恐れ型はいずれも自己観が低く(Bartholomew&Horowitz, 1991)、自己の情動開示がネガティブに働くことを懸念しやすいといえる。ただ、とらわれ型は開示欲求・開示程度が相対的に高いのに対し、恐れ型は開示程度が低い点が異なる。とらわれ型は懸念しつつも開示する(してしまう)が、恐れ型は開示しない傾向があると考えられる。これは、とらわれ型の情動処理が過活性方略と呼ばれ、抑制が困難なことなどとも一致する。一方、恐れ型は情動を開示せずに他者との関係から撤退しやすいと考えられる。

怒りの場合は自己保護でも有意差がみられ、恐れ型が回避型よりも高かった。恐れ型は回避型と比べて怒りエピソードを恥ずかしく感じたり、意識したくないと感じるといえる。

Table 1 愛着スタイル別の開示欲求、開示程度、開示抑制理由の得点と分散分析結果

情動エピソード	尺度	安定型	回避型	とらわれ型	恐れ型	F	多重比較 (Tukey 法)
悲しみ	開示欲求	3.67(1.80)	2.87(1.89)	4.04(1.83)	3.30(2.10)	2.66*	と>回
	開示程度	3.09(1.63)	3.04(1.75)	3.27(1.72)	2.26(1.21)	4.89**	安・と>恐
	自己保護	3.18(1.55)	3.17(1.46)	3.72(1.44)	3.79(1.65)	2.52†	
	対人関係懸念	2.65(1.34)	2.68(1.16)	3.53(1.39)	3.44(1.32)	6.89**	と・恐>安, と>回
	明確化困難	3.79(1.40)	3.24(1.43)	3.81(1.49)	4.14(1.47)	2.36†	恐>回
	社会価値低さ	4.28(1.51)	4.01(1.38)	4.23(1.62)	4.32(1.44)	0.28	
怒り	開示欲求	3.79(1.99)	3.29(1.79)	5.13(1.81)	3.67(1.88)	8.20**	と>安・回・恐
	開示程度	3.07(1.56)	3.39(1.59)	3.41(1.88)	2.55(1.39)	3.03*	と>恐
	自己保護	2.92(1.31)	2.42(1.50)	3.13(1.47)	3.40(1.51)	2.80*	恐>回
	対人関係懸念	3.03(1.30)	3.02(1.22)	3.85(1.50)	3.87(1.31)	6.20**	と・恐>安
	明確化困難	3.20(1.36)	3.14(1.37)	3.42(1.33)	3.63(1.65)	1.17	
	社会価値低さ	4.24(1.43)	3.96(1.19)	4.06(1.62)	4.47(1.65)	0.96	

† $p<.10$, * $p<.05$, ** $p<.01$